

環境にやさしいピーマン病害虫防除技術の開発と改良

<p>【研究のポイント】</p>	<p>大分県のピーマンは、IPM(総合的病害虫管理)(※1)による減農薬栽培に積極的に取り組んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防虫ネット被覆によるタバコガ対策 流通過程でピーマンが腐る「軟腐病」を、タバコガ類が媒介することを明らかにしました。タバコガ類防除のため防虫ネット被覆が有効であることを確認しました。</li> <li>2. 新しい天敵利用 アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類およびチャノホコリダニを捕食する天敵(スワルスキーカブリダニ)を利用する技術を確立しました。</li> <li>3. 新しいうどんこ病防除 ”簡単+低コスト+有効”な硫黄粉剤(※2)の株元処理の方法を確立しました。</li> </ol> <p>これらを組み合わせた実証試験に取り組みながら、一層の技術改良と減農薬栽培に向けた取り組みを実践しています。</p> <p>(※1)病害虫の発生状況に応じて、天敵(生物的防除)や防虫ネット(物理的防除)、農薬(化学的防除)等の防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を低減しつつ、病害虫発生を抑制する防除技術のこと。</p> <p>(※2)有機JAS適合農薬</p>
<p>【研究の成果】</p> 	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.防虫ネット被覆によるタバコガ対策 防虫ネットの設置によりタバコガ類の進入を完全にシャットアウトでき、一般の防除と比べてタバコガ対象の殺虫剤を30%削減できました。</li> <li>2.新しい天敵利用 天敵(スワルスキーカブリダニ)を使うことで一般の防除と比べて、殺虫剤を30%削減できました。</li> <li>3.新しいうどんこ病防除 硫黄粉剤を株元に処理するだけで、一般の防除と比べて殺菌剤を50%削減できました。</li> </ol> <p>これら3つの手法を組み合わせたピーマンのIPMにより、減農薬栽培である「e-naおおいだ」農産物認証制度(※3)の化学農薬3割減を達成できます。その結果、生産者の求める低コストな効率的防除、消費者の求める安全・安心な農産物を供給することができます。</p> <p>(※3)環境保全型農業によって栽培された大分県独自認証制度</p>
<p>【生産者の声】</p>	<p>防虫ネットは、設置労力や初期コストがかかるので最初は大変でしたが、削減できる散布薬剤の金額を考えるとそれ以上のものが得られました。</p> <p>アザミウマが媒介する黄化えそ病でピーマンが半分くらい収穫できない年もありましたが、スワルスキーカブリダニの導入で大変助かっています。あとは、アブラムシの発生が多いので、天敵を利用してアブラムシ対策ができれば完璧かな。</p> <p>硫黄粉剤も昨年から利用しています。これらの技術は他でも普及されると良いと思います。</p>
<p>【消費者の声】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心のために研究努力をされていることを知ることができ、ピーマン購入の際には思い出したいと思います。</li> <li>・優れた県産品の改良、開発に期待しています。</li> <li>・もっともっと県民の皆さんにPRした方が良いと思います。</li> </ul> <p>(H24.3.5 研究紹介セミナーアンケートから)</p>
<p>【連絡先】</p>	<p>担当: 農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫チーム トマト・ピーマンチーム</p> <p>連絡先 TEL : 0974-28-2078 担当 岡崎(スワルスキー)、雨川(硫黄粉剤) TEL : 0974-28-2081 担当 姫野(防虫ネット)</p> <p>住所: 大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8</p>



タバコガの幼虫



防虫ネット被覆の事例



株元への硫黄粉剤の散布



竹田市 入田さん